

「恋人の聖地」に選ばれた釜石大観音（24日午後、釜石市大平町で）

釜石大観音 恋人の聖地に 被災カップル結婚式評価

釜石市の観光名所・釜石大観音が、プロポーズにふさわしいロマンチックな場所としてNPOが認定する「恋人の聖地」に選ばれた。東日本大震災直後に被災カップルの結婚式場として使われ、恋人同士の絆を確かめ合う絶景スポットとして評価された。

恋人の聖地は、観光地の活性化と少子化対策を目的に、NPO法人地域活性化支援センター（静岡市）が2006年から選定している。全国で222か所が認定され、県内では石神の丘美術館（岩手町）、宮守川橋梁・めがね橋（遠野市）、龍泉洞と初恋水・百恋水（岩泉町）の3か所がこれまでに選ばれていた。

昭和以前の津波犠牲者らを用うために1970年に建てられた釜石大観音は、平和のシンボルとして長く市民に愛されてきた。魚を手にした高さ48・5呎の観音像は胸元に展望台になっており、海を一望できる。慈愛の「愛」が刻まれた足元の石板が記念撮影場所として人気で、震災後の2012年には6組の被災カップルが結婚式で利用した。

19日に東京都内で認定の銘板授与式があり、市が出席した。6月に野田武則市長から釜石大観音に銘板が渡され、施設内に展示される予定という。釜石大観音の照井良知総務部長は「若い人にも足を運んでもらい、釜石地域全体を盛り上げるきっかけにした」と話していた。

